

茶ぐわくゆんたく



166

楽しみ憩える集いの街へ

～コンベンション通り～

上の写真は一九八五（昭和60）年のコンベンションセンター建設前の様子です。道路を挟んで右側に宜野湾高校、左側は宜野湾市立グラウンドです。目の前を海が広がります。埋め立て前は、市立グラウンドと宜野湾高校のフェンスのすぐ後ろが海で、近隣の子どもの遊び場になっていました。

日本復帰後、新都市計画法が適用され、一九八七（昭和62）年に県内



▲沖縄コンベンションセンター建設前の様子1985（昭和60）年頃

初の本格的コンベンションエリアの建設がスタートしました。

現在、沖縄最大のコンベンション施設となり、県内外多くの人に利用されています。また、二〇〇六（平成18）年には、市民アンケートでは宜野湾市で大切にしたいもの第一位となりました。

コンベンションリゾートエリアを中心に様々な商業施設が隣接し、賑わいを見せています。さらに宜野湾バイパスの宇地泊と浦添の牧港との間の橋がいよいよ開通します。空港から宜野湾までが近くなり、観光客の増加が見込まれます。

宜野湾市の誇る西海岸の発展に目が離せません。



▲沖縄コンベンションセンター入口2018（平成30）年

はくぶつかんの部屋 ④

地域との連携企画展「ぎのわんの字」展「野嵩あしび華やぐ伝統の野嵩ムラ」

皆さんは、本市立博物館が年に1回行い、今年度で10回目の開催となる「字（あざ）展」をご存知ですか？ご存知の方は、ひよっとすると地元「字展」が開催済みの方かもしれませんね。

「字展」は、その名のとおり、市内各字の中から1つの「字」にスポットを当て、歴史や文化を紹介する展示会となっています。先程もお伝えしましたが、今回で10回目となる「字展」に見事スポットを当てられた「字」は、皆さんが必ず一度は訪れた事のあるあの地域…そう「野嵩」です。ご存知の通り、現在の「野嵩」には市の主要施設である市役所や中央公民館、消防署、水道局などが建てられている地域です。



▲クシヌカ



▲前回の「字展」の様子

では、はるか昔の野嵩はどうだったのでしょうか？宜野湾村の頃の野嵩は、ほとんどがサトウキビやイモ、大豆を主要作物とする農家で…と、ここでお話をしてみましょうと、お楽しみが無くなってしまおうので、気になる方はぜひ、博物館まで足をお運びください！と言いつつ、ここで小話の一つ。20～30年前、当時中学～高校生だった方に、野嵩ならではのお話を聞くと、学校に行く時や部活、遊びに行く時に友達と「〇時にクシヌカでね！」と、待ち合わせ場所が「クシヌカ」になる事がよくあったそうです。当時は何の想いも無く、ただ待ち合わせていた場所でしたが、今となっては「地域に深く根付いている文化財に無意識に触れていたんだなあ」と、あの頃の自分を振り返り「何か（言葉に出来ないけど）凄い！」と感動されていました。

地元を知っているつもりでも、誰かに話そうと思うと意外と出てこなかったり、何より「知らない」と言う方もいらつしやるかもしれません。「自分を振り返る良い機会になる」または「地元を知る事が、自分のルーツを知る事の第一歩に繋がる」かもしれない「字展」。気になる方は、ぜひ足をお運びください。

【問合せ】市立博物館 ☎ 870-9317 入館料無料となっておりますので、お気軽にご来館ください。